

編集後記

「演習林 100 年史」の刊行計画は年度内の完成をめざして進行していたが、100 周年記念事業担当の大橋邦夫氏が急病で倒れるというアクシデントに見舞われ、急遽ピンチヒッターとして私が編集責任者に指名され、刊行のお手伝いをするようになった。本年 1 月初めのことである。

編集に際しては、記述された内容に極力立ち入らないことを原則とした。大項目の配列はあらかじめ原稿執筆の指針として示されていた順序（1. 創設・沿革、2. 森林、施設の現況 等々）に従った。指針とは合致しない記述の原稿については上記の順序に従って配列しなおした。中～小項目には統一した番号を付した。

年代の表記は、これもすでに定められていた西暦年に元号を併記する方式に従ったが、文献の引用、注記など括弧内に記されたものについては原則として西暦年のみとし、とくに必要と考えられた場合に限り元号も付した。また、～年頃、～年代などについては文中の前後関係から西暦あるいは元号のいずれか一方のみを用いることにした。

年表は、各地方演習林によって事項の取り上げ方、説明の長短など記載の仕方にかかなりの相違があったがこれには触れないこととし、とくに表記の仕方がまちまちであった年月に関してのみ統一を行った。すなわち、年だけしか記載されていないものはそのままし原則として月まで記載することにしたが、日付が記載されたものについては、とくに必要と判断された場合にのみ事項の説明文中に入れた。

上に述べたいわば正史とも言えるべきもののほかに、これを補足する資料となる原稿がこれまで多くの旧演習林職員から寄せられている。これらも逐次刊行していく予定であるが、今回は、台湾や樺太など第二次世界大戦前の海外における演習林で豊富な経験を積まれた本学名誉教授・嶺一三先生の原稿を資料第 1 集として同時に掲載することとした。

最後に、各項の執筆担当者を明記して編集の締めくくりとする。

I. 総論（大橋邦夫）、II. 千葉演習林（大里正一、根岸賢一郎）、III. 北海道演習林（山本博一、倉橋昭夫）、IV. 秩父演習林（梶 幹男）、V. 愛知演習林（西尾邦彦）、VI. 富士演習林（大橋邦夫）、VII. 樹芸研究所（諸戸清一）、VIII. 田無試験地（小久保 醇、八木喜徳郎）

平成 6 年 3 月

小久保 醇